

報道機関 各位



資料提供 平成31年2月21日
農林水産部 農林政策課 研究推進班
担当者 主 幹 齋藤 明子
TEL 018-860-1762
畜産振興課 調整・畜政・経済班
担当者 副主幹 工藤 一磨
TEL 018-860-1806
○ 畜産試験場 比内地鶏研究部
担当者 部 長 佐々木 専悦
主任研究員 力丸 宗弘
TEL 0187-72-2511
美の国あきたネット掲載 有・無

遺伝子選抜により、比内地鶏の体重増加に成功

～ 地鶏生産者の売上増加に貢献 ～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）と秋田県畜産試験場等との共同研究により、比内地鶏等の四県の地鶏について、発育性を向上させ、出荷時の体重を増加させることに成功しました。

- 農研機構と秋田県畜産試験場が共同で、「比内地鶏」の父系親品種「比内鶏」において、ある遺伝子型を持つと発育性が向上することを発見（試験では、平均体重が約60g（2.2%）増加）。
- この結果をもとに、農研機構・秋田県畜産試験場・岐阜県畜産研究所・熊本県農業研究センター畜産研究所・宮崎県畜産試験場が、比内鶏の発育性が向上したのと同じ遺伝子型で各県の地鶏の種鶏を選抜・固定したところ、四県すべての地鶏で発育性が向上し、出荷時体重が増加することを確認。
- この成果の応用により、四県の地鶏生産者の売上増加のみならず、全国の地鶏の発育性向上が期待される。
- 秋田県畜産試験場では、今後、この遺伝子型の種鶏群を大きくしつつ、この種鶏を使用した比内地鶏の現地実証試験を実施する予定。
- この比内地鶏素雛の一般供給は、3年後から段階的に開始する見込み。